



生徒会マスコット
「やっちやれ君」

平成27年度

周陽中学校における コミュニティ・スクールの取組

周南市立周陽中学校
平成27年12月19日(土)



地域の概要

周南市中央部の市街地東側に位置し、徳山湾沿いに林立する石油コンビナート群を眼下に見下ろす高台にある学校

山口県

周南市



学校の周辺には周南緑地公園があり、緑豊かな環境と陸上競技場、野球場、総合スポーツセンター場など多くのスポーツ施設、県営市営住宅など大型の集合住宅地、さらには大規模病院、高専、大学も校区内にある。

周陽小学校

遠石小学校

桜木小学校

周陽中学校



学校の概要

◆ 昭和47年 開校

昭和38年、旧徳山市が市街地東方丘陵地に団地造成を計画。周南団地居住者の増加に伴い、市中心部の岐陽中学校から分離。

◆ 平成27年 44周年〈生徒数455名17学級〉

校訓「自主 創造」のもと、文武両道を目指している。スポーツ面では、これまで陸上競技、野球、卓球女子、ソフトテニス女子、サッカー一部の全国大会出場、文化面でも科学の甲子園大会全国大会出場、全日本中学校英語弁論大会全国大会出場など数々の実績を残している。

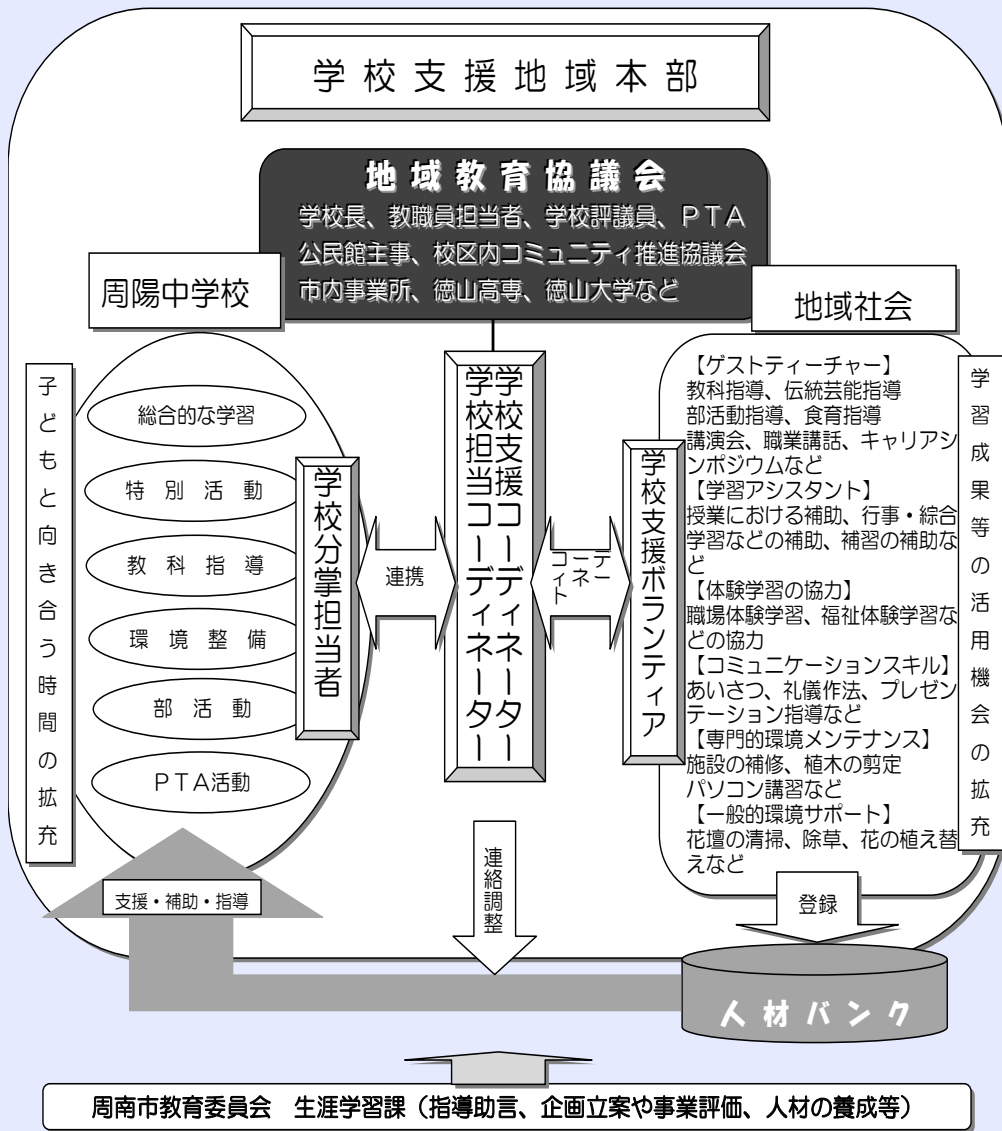


～周南市学校支援地域本部事業のイメージ～

目的

地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果や知識・技能等の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図る。

◆学校支援地域本部事業の概要



I

これまでの取組から

平成23年度学校支援地域本部事業「地域教育協議会」を設置し、多くの地域の方が、学校支援に入ってく



平成24年度周南市教育委員会は、すべての小・中学校に学校運営協議会を設置し、本校もコミュニティ・スクールとしてスタート。

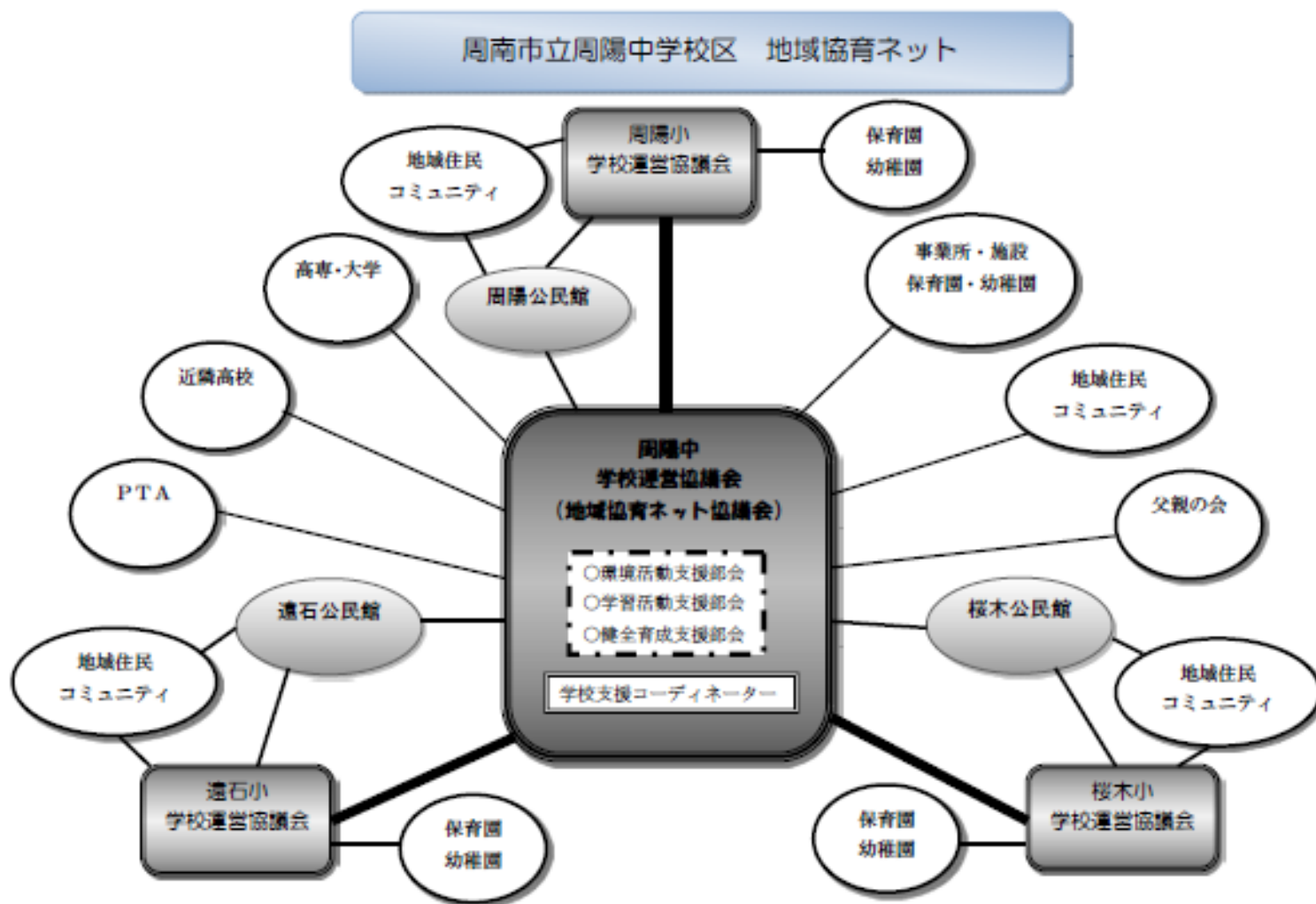
周南市のコミュニティスクールのイメージ

～学校・家庭・地域の強い絆づくり～

学校運営協議会



また、概ね中学校区を一つのまとまりとする「地域協育ネット」としての取組が平成23年度から始まり、周陽中学校運営協議会を「地域協育ネット協議会」とも兼ねて体制づくりが行われた。



周南市が目指す 「小中連携コミュニティ・スクール」

平成26年度～平成27年度

中学校区を単位とした運営体制の拡大
計画書に基づく小中連携教育の実践
学校を核とした地域コミュニティの創設

小中連携 の推進

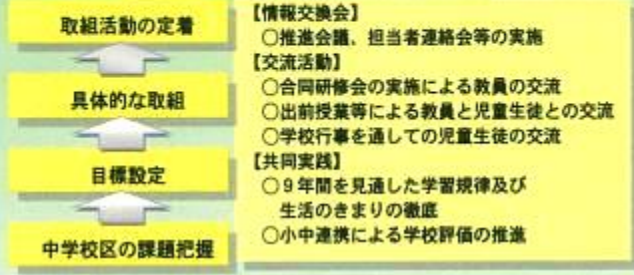
中学校区
の組織

中学校区の教育課題の把握・ビジョンの設定

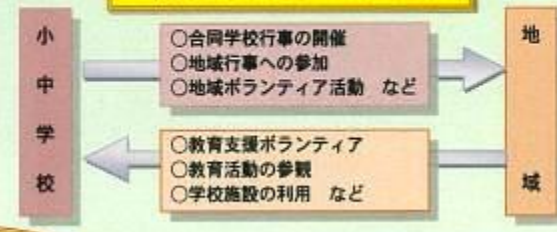


活動部会
のつながり

小中連携教育実施計画書による実践



単独校から中学校区での合同実践



平成24年度～平成25年度

地域・各学校の実態に即した組織を構築
開かれた学校づくりの推進
なめらかな小中連携の取組

地域の既存組織を
有効に活用

地域のキーパーソンとの関係づくり

市教育委員会の支援

- ・各校への予算措置（交付金）
- ・コミュニティ・スクールだよりの発行（市内、県内の情報を学校に提供）
- ・教職員の研修機会（講演会、研修会）
- ・コミュニティ・スクール会長会議の開催
- ・エリア担当指導主事による学校支援
- ・CSコンダクターによる助言、支援
- ・協議会委員を含む市民対象研修会を実施
- ・広報紙やメディアを活用した情報発信

学校運営協議会の組織づくり

- ・組織内に具体的な活動部会を設置
- ・活動部会と校務分掌組織を連動（組織的な学校運営）
- ・学校運営協議会委員の役割の明確化
- ・学校と地域とのつなぎ役の位置づけ（地域連携主任や地域コーディネーターを配置）

開かれた学校づくり

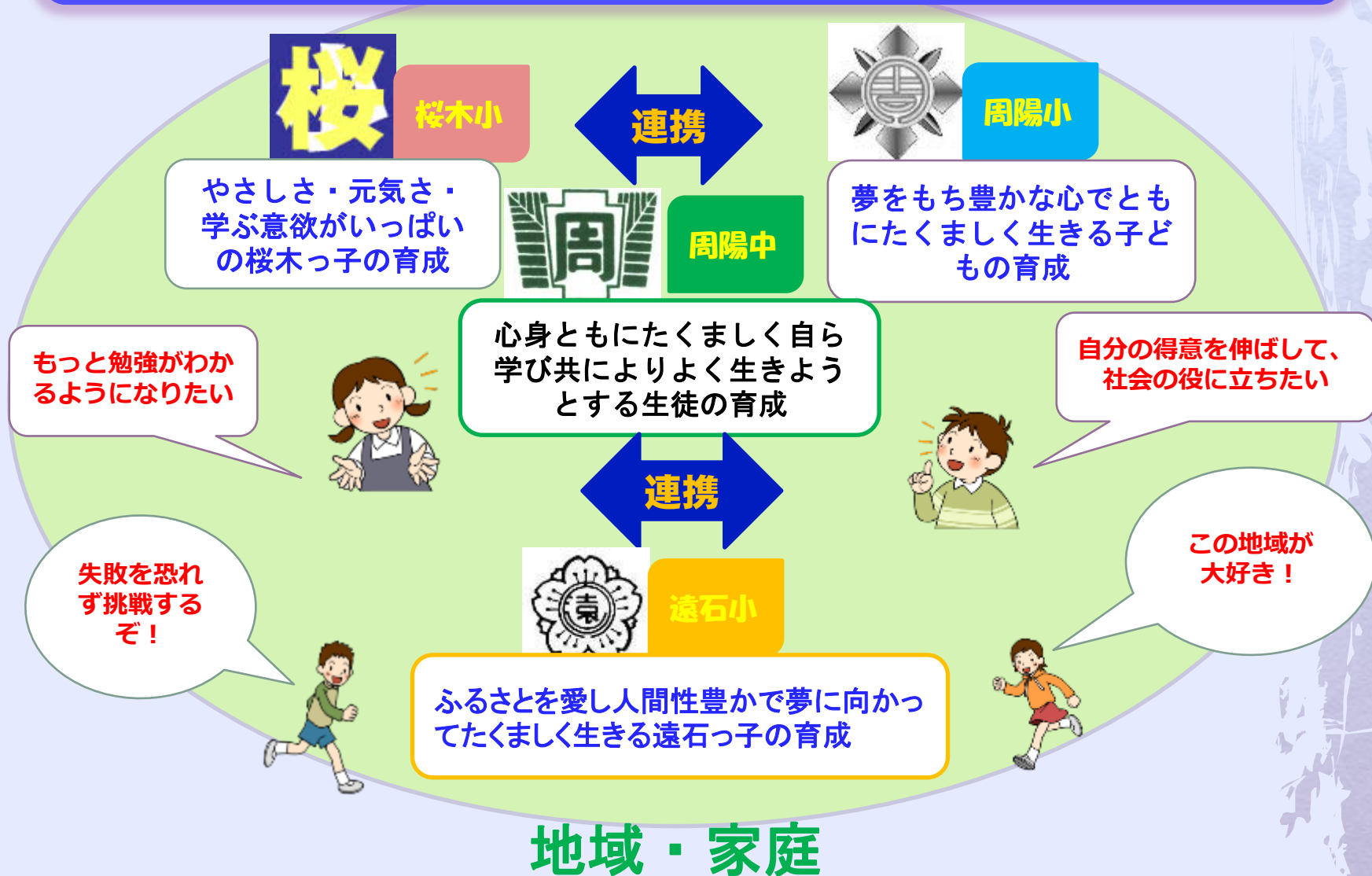
- ・学校だより、CSだより、ホームページによる情報発信や情報提供
- ・公民館だよりを活用
- ・学校に来校する機会の充実（地域参観日、学校開放週間など）
- ・コミュニティ・ルームの開設
- ・地域住民や保護者を対象とした学習講座の実施
- ・地域住民や保護者によるボランティア活動の実施（学習・環境・安全）
- ・地域との連携を重視した行事の開催

小中連携の計画から実践へ

- ・各校の学校行事の工夫、充実
- ・小中学校間をつなぐ合同学校行事、共同実践
- ・教員間の交流を促進する取組
- ・児童生徒間の交流を促進する活動



周陽中地域協育ネットイメージ（小中連携版）



小中連携の必要性について

荒れる中学校区で・・・

小学校から聞こえてくる声

→ 中学校の指導が悪い

中学校から聞こえてくる声

→ 小学校の指導が悪い

お互いこんなにもいいところがあるのに・・・

小学校：きめ細やかさ、丁寧さ、教材教具の工夫、表情
たっぷりの語りかけ

中学校：組織的な対応、将来を見据えた指導

結局・・・

お互いをよく知らないのではないか

そこでどんな連携が必要なのか

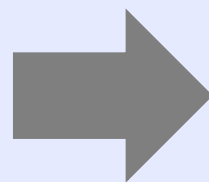
一番大切なのは知り合うこと、子どもの姿を共有すること

1 課題・情報の共有

2 共通実践

3 なめらかな接続

4 地域との連携



9年間を見通して
どんな子どもを育
てるのか

小中連携推進

地域ぐるみで15歳までの子
どもたちの育ちや学びを支援
する体制づくり

学校を核にした地域
コミュニティづくり

III

平成26年度、4つの学校の教職員と学校運営協議会委員が一同に介して、「周陽中学校区の子どもたちの豊かな学びと育ちとは」というテーマで熟議を行った。



6人ずつの16グループにおける、60分間のグループワーク。
ファシリテータは、教員が行う。

周陽中学校区合同学校運営協議会

～周陽中学校区の子どもたちの
豊かな学びと育ちをめざして～



日時：平成26年8月4日（月）13:30～15:30

会場：キリンビレッジ田南総合スポーツセンター



16グループすべてのプランの発表を報告。大きく3つの内容に分類される。1つには、「生活習慣・体力向上、環境整備」に関すること、2つには、「学力向上・読書活動」に関すること、3つには、「地域行事・体験活動に関すること」にまとめられた。



KRY山口放送

Yamaguchi Broadcasting Co.,Ltd



「協働への歩み～地域ぐるみで子どもを育む動きづくり～」

「にこにこあいさつプラン」「自学サポートプラン」実施後、中学校学校運営協議会で生徒と委員で取組後の感想や今後の課題点などを話し合った。



中学生は身近な先輩なので、小学生にとってあこがれや手本になって、良い習慣が定着するのでは。
(にこにこあいさつ)

公民館まで行く時間も勉強できたらいいいので、会場を中学校にしたらいと思う。(自学サポート)

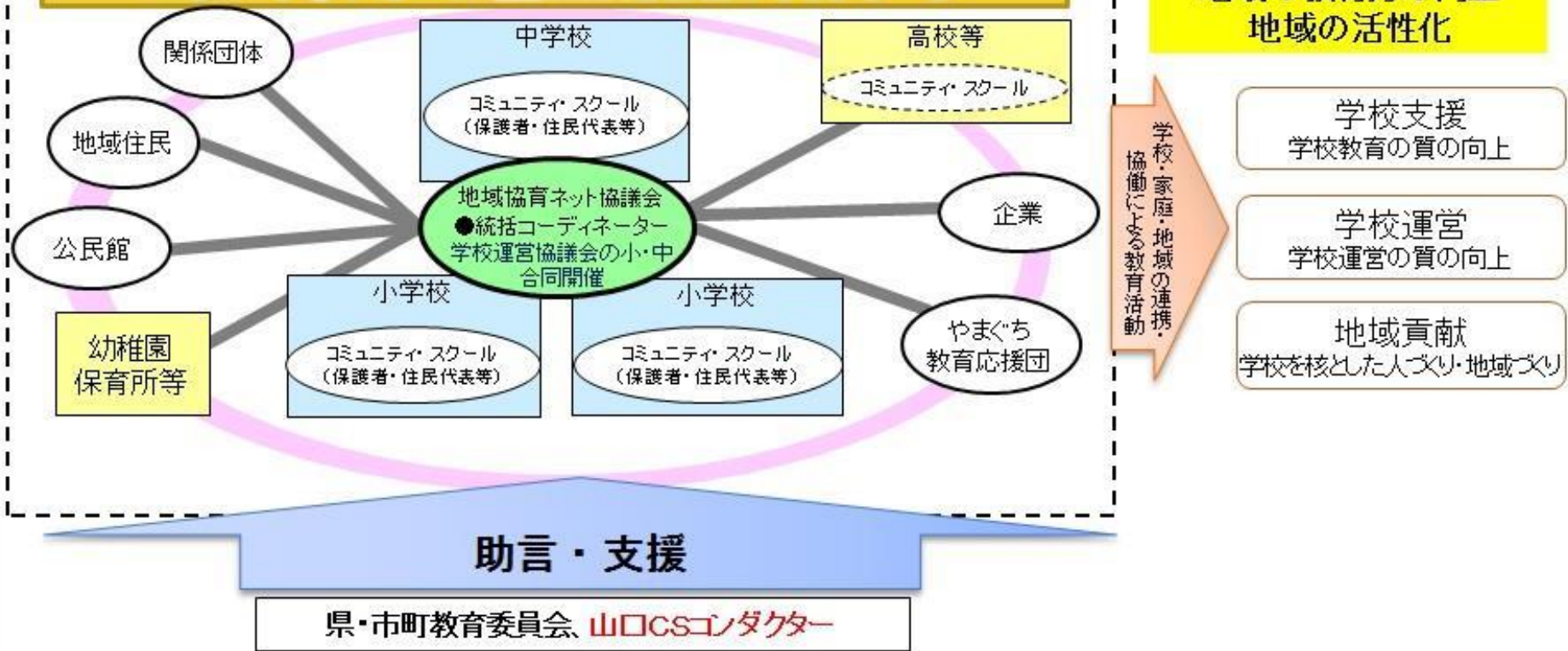




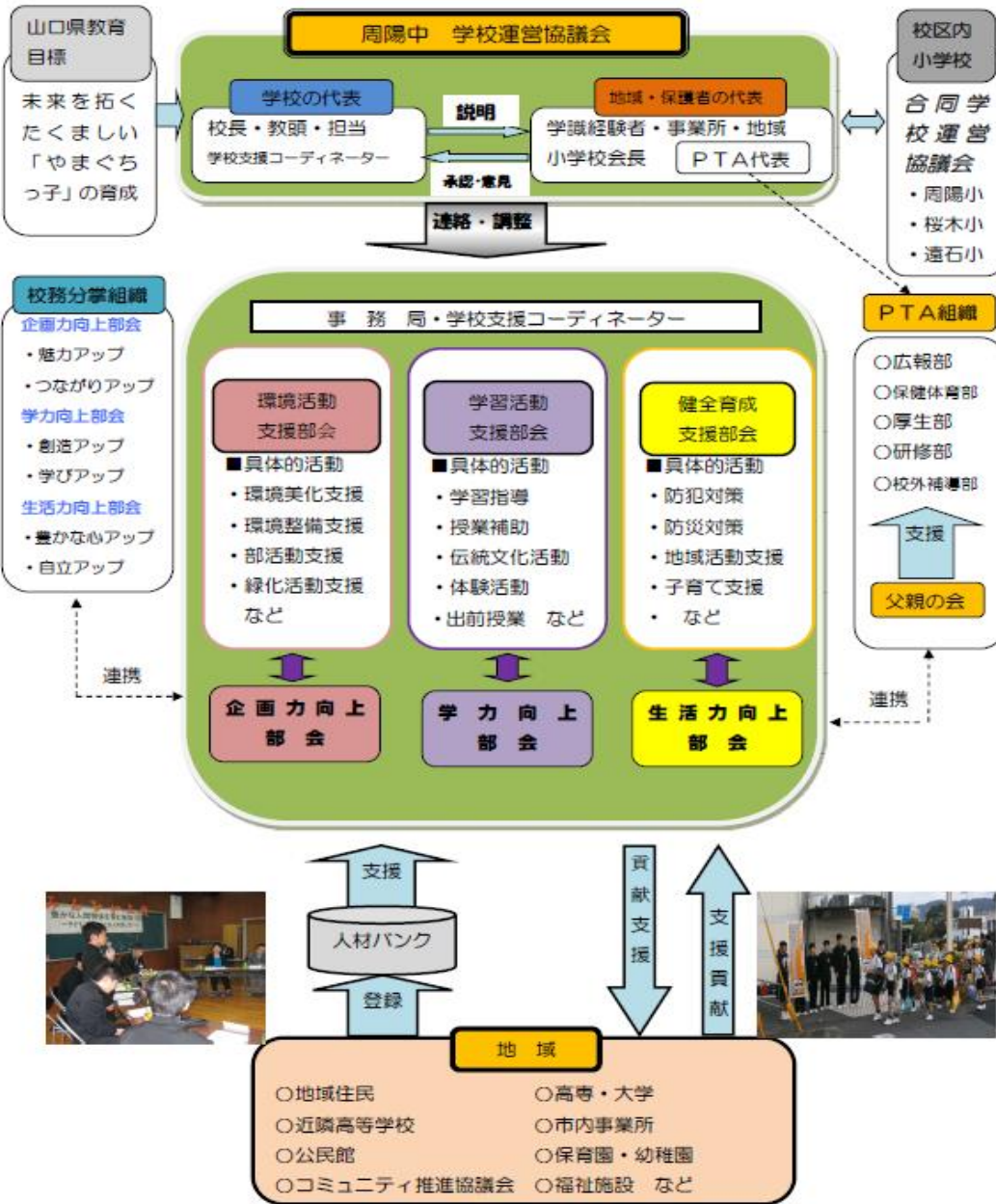
今年度は、「やまぐち型地域連携教育」の周南市モデル校に指定。山口CSコンダクターの指導助言を受けながらCS4年目に入る。

「やまぐち型地域連携教育」の推進

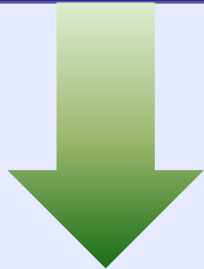
コミュニティ・スクールを核とした地域のネットワーク



コミュニティ・スクール運営構想



小中連携型CSを推進していくための取組



小中学校4校のCSの各部会を統一する。「環境活動支援部会」「学習活動支援部会」「健全育成支援部会」

平成27年度統一した3部会による「熟議」が開催される！

環境活動支援部会の例



平成27年度 周陽中学校区 合同学校運営協議会 熟議のまとめ

周陽中学校

部会	班	成果	課題	キーワードとして、記載されていたもの
環境活動支援部会	A 1	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備の学校負担は軽減できる。 地域がきれいになる。 地域の方と交流できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加される方だけとの交わりになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携に関する負担の軽減と効率化 ○中学生と小学生の縦割り美化活動 ○地域と小中が同じ日にクリーン作戦 ○行事の精選
	A 2	<ul style="list-style-type: none"> 世代を超えたつながりがもた。 地域を美しくしようとする心が育つ。 親がゴミを捨てる姿を見ることが大切。 学校が分類箱を用意しているため、負担が少ない。 子どもたちが日々目に見える通学路がきれいになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の必要性がある。 参加者が限定されている。 頻度が少ない。 打ち合わせなどの時間が十分に取れない。 ゴミの処理の仕方。 	<ul style="list-style-type: none"> ○顔見せて地域とつながる美化活動 ～子どもがよく利用する商店(コンビニ)を巻き込んで～ ○世代をこえたつながり ○子どもの情操教育 ○目に見えて分かる環境の美しさ
	A 3	<ul style="list-style-type: none"> 人手が集まるので、目視できないところがきれいになる。 ゴミを捨ててはいけないという意識が高まった。 地域のゴミの多さにも気づけた。 校内の雰囲気明るくなった。 学校、地域、保護者の顔合わせになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の人だけが参加している。 生徒の安全と清掃時間の確保。 継続した取り組みになりにくい。 進んでやろうというまで至っていない。 中学校区の活動となると協力が薄らい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴミ拾い活動、緑化活動の小中合同実施 ○異年齢の活動
	A 4	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方とのふれあいや協力が助みに 作業を一緒に行うことで一体感が生まれ 地域の方の協力体制がよい。 子どもや教職員でできないところを助けて 		
	A 5	<ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者、生徒が一緒に取り組める 樹木の剪定等、難しいことをやっていた 意識が高まる。 上級生のリーダーシップが見られた。 生徒のよさを新たに発見できた。 		

環境活動支援部会では、美化環境について話し合った。地域の方とふれあいながら、小中合同で地域の美化活動を模索していこうとする意見が多かった。

次の中学校学校運営協議会で、生徒と委員が、各部会で協議し、今後の取組を検討。



もっと、大人の人達はかたいイメージがあったけれど、実際そうでもなかったし、同じ事を考えていたりすることもあるって驚きました。私は今まで、大人は遠い存在で、自分達の思っていることが分かってもらえないだろうから、関わらなくていいや、という考えでした。でも全然違ったし、逆に納得してくださったり、そこから両方の意見をふまえて新しい考えがでてきたりと、とても面白かったです。



地域の方の支援のおかげで、教育活動が充実し、環境も整備されている。

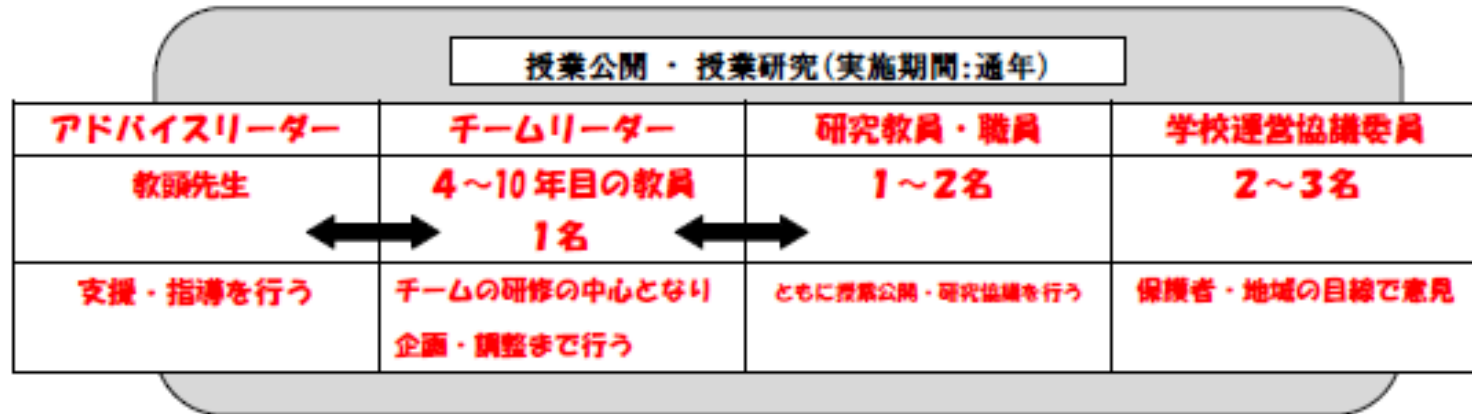


花壇の除草、花の植え替え、放課後のトイレ掃除などのボランティアを地域の方が毎日入ってくださる。

茶道・華道を地域の方が定期的に入って教えてくださる。生徒だけでなく保護者の学びにもつながっている。

学校運営協議会委員も入ったチーム単位で研究授業を行い、授業後の協議には生徒も参加して話し合うことで、授業改善を図っている。

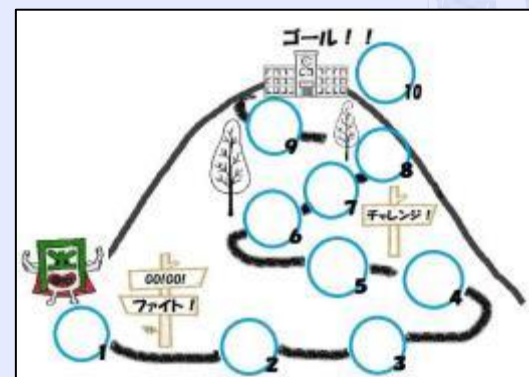
授業公開システム



生徒のボランティア意識や地域行事に積極的に参加しようとする意識が高まっている。



地域の清掃や祭り、研修会などに参加。地域の人に褒めてもらえる、ふれあいも楽しい！



ボランティアカードのスタンプも楽しみ！



地域自主防災協議会の研修会に参加。避難所運営について地域の人と協議。

学校が、地域の大人の学びの場や、子どもと大人、大人同士が
つながる場となっている。

周陽中学校コミュニティ・スクール

保護者・地域の方々 大歓迎

第3回 大人のキャリアアップ講座

「心理学から見たケータイ利用の特徴

～なぜ手放せなくなってしまうのか～

講師：井手口範男 先生（徳山大学福祉情報学部）

携帯電話の普及により、情報をいち早くキャッチできる便利な世の中になりました。その反面、携帯電話依存症やネット上でのさまざまなトラブルなど、情報化社会ならではの問題も多数見られるようになりました。今回は徳山大学の井手口先生をお招きし、心理学の視点からこれらの問題を分析していただきます。

日時

1月23日（水）19：00～20：00

場所

周陽中学校図書館

定員

30名程度

申込締切

1月22日（火）

参加費

無料

主催

周陽中学校学校運営協議会



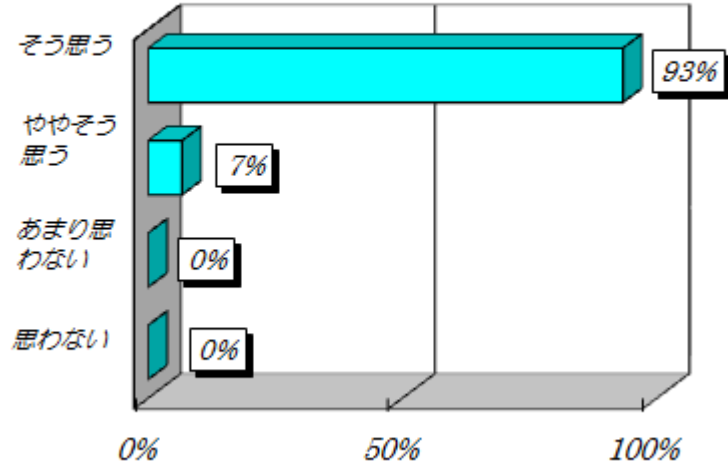
お申し込みは、周陽中学校（担当：杉）までご連絡ください。
周陽中学校 TEL0834-28-1348

地域貢献



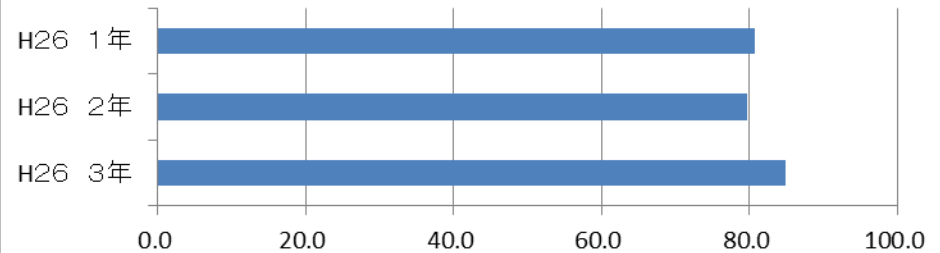
学校関係者評価

① 教育に一生懸命取り組んでいる



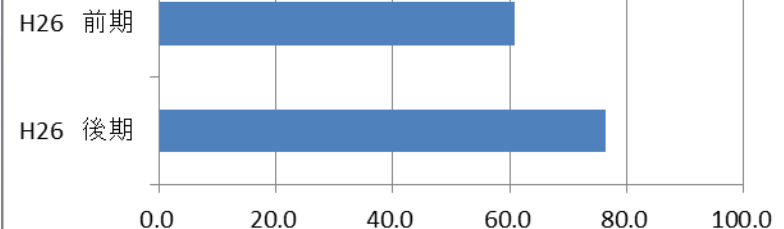
保護者アンケート

あいさつ運動やボランティア活動など、
コミスクの活動は充実してきている。



生徒アンケート

部活動と重ならなければ、地域の行事や
ボランティア活動に参加してみたい。



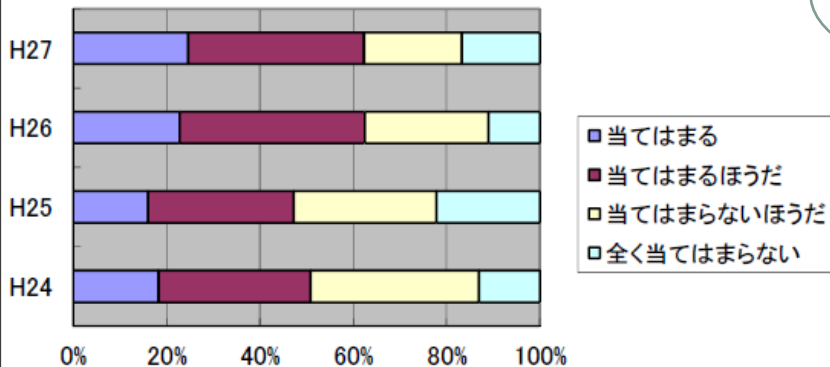
平成26年度学校評価において、年々
コミスクの取組の理解が進んでいること
がわかる。生徒の地域への関心も
年々高まりつつある。

過去4年間の学習状況調査から見える子どもたちの意識は少しずつ向上している

失敗を恐れず挑戦するぞ！



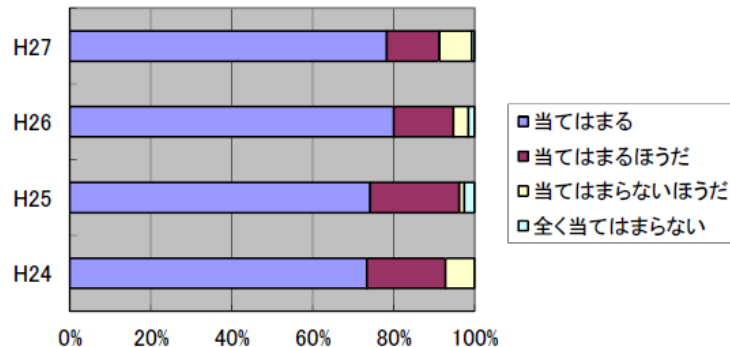
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



この地域が大好き！



ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがありますか



もっと勉強がわかるようになりたい

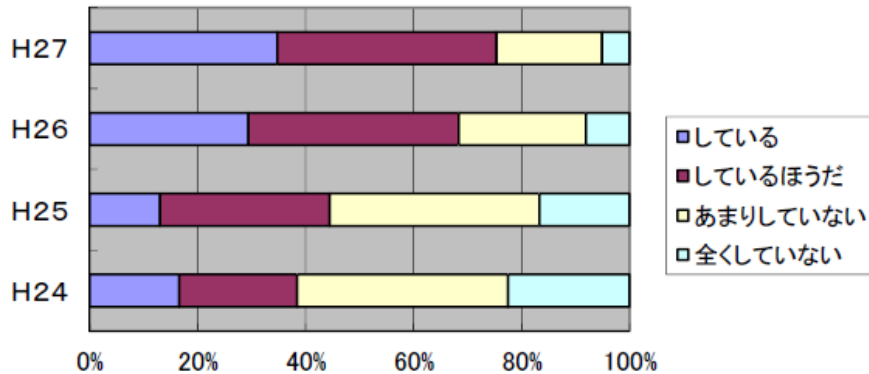


心身ともにたくましく自ら学び共によりよく生きようとする生徒の育成

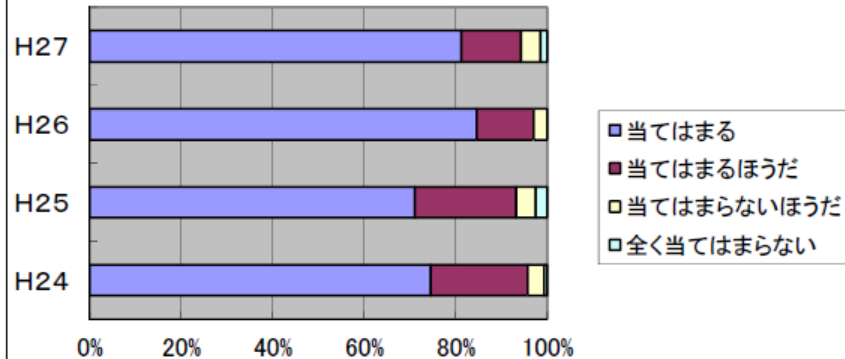


自分の得意を伸ばして、社会の役に立ちたい

家で学校の授業の復習をしていますか



人の役に立つ人間になりたいですか



今後、取り組むこととして小中連携の視点から・・・

小中連携の推進のために、目標の設定、共同の取組、小中連携による学校評価の実施などの取組が必要となる。

取組活動の定着



具体的な取組



目標設定



中学校区の課題把握

【情報交換会】

- 推進会議、担当者連絡会等の実施

【交流活動】

- 合同研修会の実施による教員の交流
- 出前授業等による教員と児童生徒との交流
- 学校行事を通しての児童生徒の交流



【共同実践】

- 9年間を見通した学習規律及び生活のきまりの徹底
- 小中連携による学校評価の推進

めざすことは……

- ◆ 私たちは、子どもたちの姿の変容で、成果を実感したいと思います。
明るく、元気で、素直。失敗を恐れず、挑戦する気持ちを忘れず、一步前を一段上をめざし、地道な努力を怠らない、そして、優しさや思いやりをもって感謝する心を大切にする、そんな子どもたちを、家庭や地域と協力して育てます。
- ◆ 多くの子どもたちが地域の大人と関わり、それが子どもたちの地域を感じ、地域を愛する気持ちの高まりや生きる力の育成につながると信じています。
- ◆ 子どもたちの笑顔は、家庭や地域の元気。
家庭や地域の温もりは、子どもたちの力。みんなが誇りに思える地域を共に創りたいと思います。



ご静聴ありがとうございました